

国際的資本移動によるリスクシェアリングが経済成長に与える影響

梶野 智子(法政大学大学院 経済学研究科)

要旨

本論文では、国際的な資本移動によるリスクシェアリングが経済成長に与える影響についてカリブレーションを行い、国際的な資本移動によって厚生利益が生じることを示した。本論文では Obstfeld(1994)の論文の分析を拡張している。Obstfeld(1994)の論文では64カ国のデータを使用していたが、本論文では124カ国のデータを使用している。また、Obstfeld(1994)の論文で使用されていたデータより新しい1994-2000年のデータを使い分析を行っている。

本論文の構成は、1章イントロダクション、2章先行研究、3章 Obstfeld(1994)のモデル及びカリブレーションの紹介、4章国際的な資本移動によるリスクシェアリングが経済成長に与える影響についてのカリブレーション、5章結語となっている。

2章では、国際的な資本移動に関するこれまでの研究を簡単にまとめている。3章では、4章でカリブレーションを行うときに使用したモデルをまとめ、さらにリスクシェアリングが成長に与える影響についての Obstfeld(1994)のカリブレーションの結果を紹介している。4章では、Obstfeld(1994)のモデルに基づき、Penn World Table (Robert Summers and Alan Heston)の消費の成長率や、IFSからとった deposit rate や、World Federation of Exchanges からとった total return のデータを用い、124カ国のデータを、アフリカ、CIS、東欧、東アジア、欧州、オセアニア、南アジア、中東、中米、南米、NAFTA の、11の地域に分け、国際的な資本移動によるリスクシェアリングが成長に与える影響についてカリブレーションを行っている。カリブレーションではまず、消費の期待成長率や消費の成長率の標準偏差といった、成長を測るカリブレーションに必要な基本的な値を求め、次に risky asset と riskless asset の収益を求め、最後に国際的な金融市場の統合による厚生利益を求めた。その結果、国際的な資本移動によって、国際的にリスクシェアリングが進み、リスクが低下した。そのことにより risky asset の投資が増え、全体的な投資の収益が上がり、国際的な資本移動による厚生利益が生じることが示された。